

第 3 章

現状評価・課題

【3-1】京丹後市水道事業の現状評価に当たって	27
【3-2】京丹後市水道事業の現状評価	28
(1) 水需要の動向	28
(2) 水道施設の状況	30
(3) 水質状況	37
(4) 経営状況	38
【3-3】現状評価の課題	40

【3-1】京丹後市水道事業の現状評価に当たって

50年後、100年後の将来まで続く水道事業として、「持続」「安全」「強靱」の視点から現

状を分析し、課題を整理しました。

- ①「持続」(健全経営を継続できる水道であるか)
- ②「安全」(安心・安全で信頼される水道であるか)
- ③「強靱」(災害や危機管理に強い強靱な水道であるか)

なお、現状分析を行うに当たっては、「新水道ビジョン作成の手引き(厚生労働省)」の業務指標(PI)を活用することとし、京丹後市水

道事業と他の水道事業体との相対的な状況を把握するため、全国の水道事業体の平均(全国平均値)との比較を行いました。

【参考】

業務指標(PI)とは

業務指標(PI: Performance Indicator)とは、水道事業の運営管理に関するサービスに関するデータから算出される現状把握と評価のための数値です。業務指標(PI)は、日本水道協会規格「水道事業ガイドライン」(JWWA Q100)にて規格化されており、水道サービスの目的を達成し、サービス水準を向上させるために、水道事業を多面的に定量化(数値化)するものです。業務指標による指標を把握することで、種々の側面から定量的で客観的な水道事業の評価及び分析が可能となります。

ここでは、日本水道協会規格に基づき可能な範囲で業務指標を算出し、結果の分析から現在の京丹後市水道事業の状況分析を行いました。

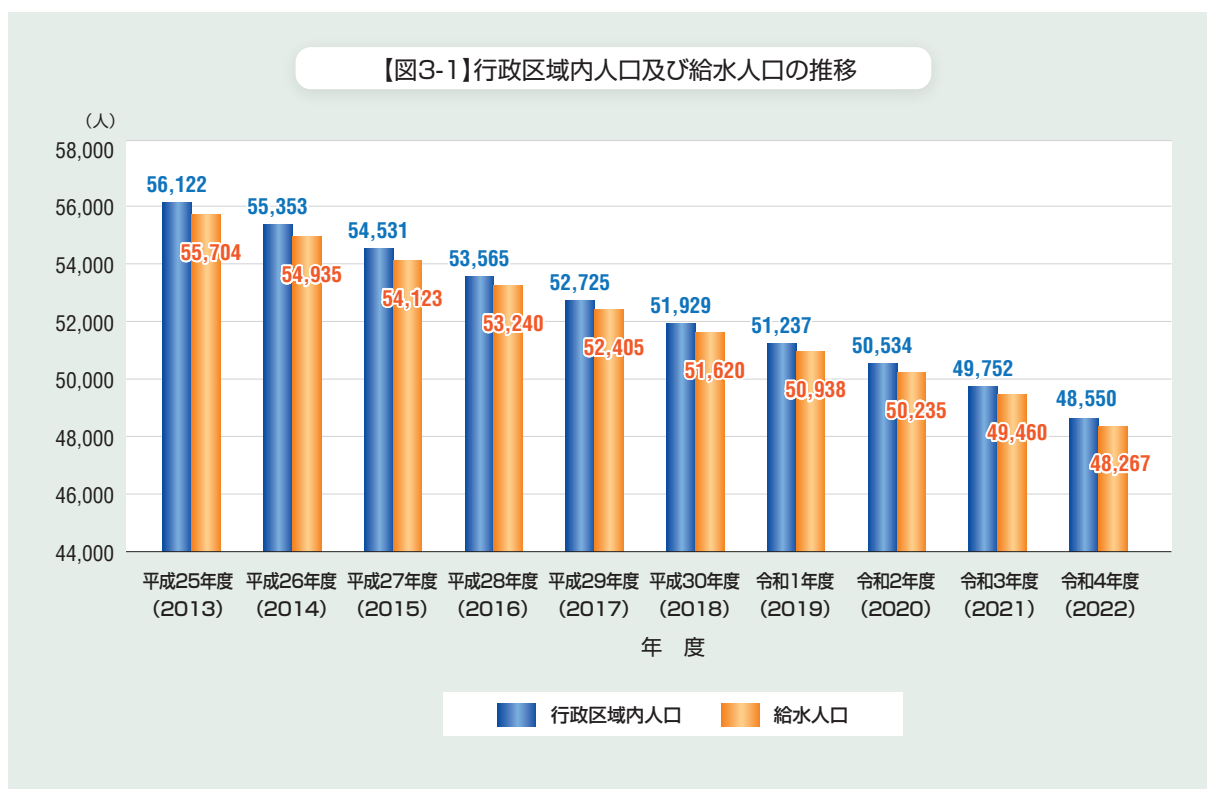
【3-2】京丹後市水道事業の現状評価

(1)水需要の動向

1.人口の推移

行政区域内人口及び給水人口の推移を図3-1に示します。行政区域内人口は減少しており、平成25(2013)年度の行政区域内人口は約5.6万人でしたが、令和4(2022)年度には約4.9万人まで減少しています。

それに伴って、給水人口も減少しており、平成25(2013)年度の給水人口は約5.6万人でしたが、令和4(2022)年度には約4.8万人まで減少しています。



出典:水道統計

行政区域内人口:水道統計における行政区域内人口は、京都府推計人口

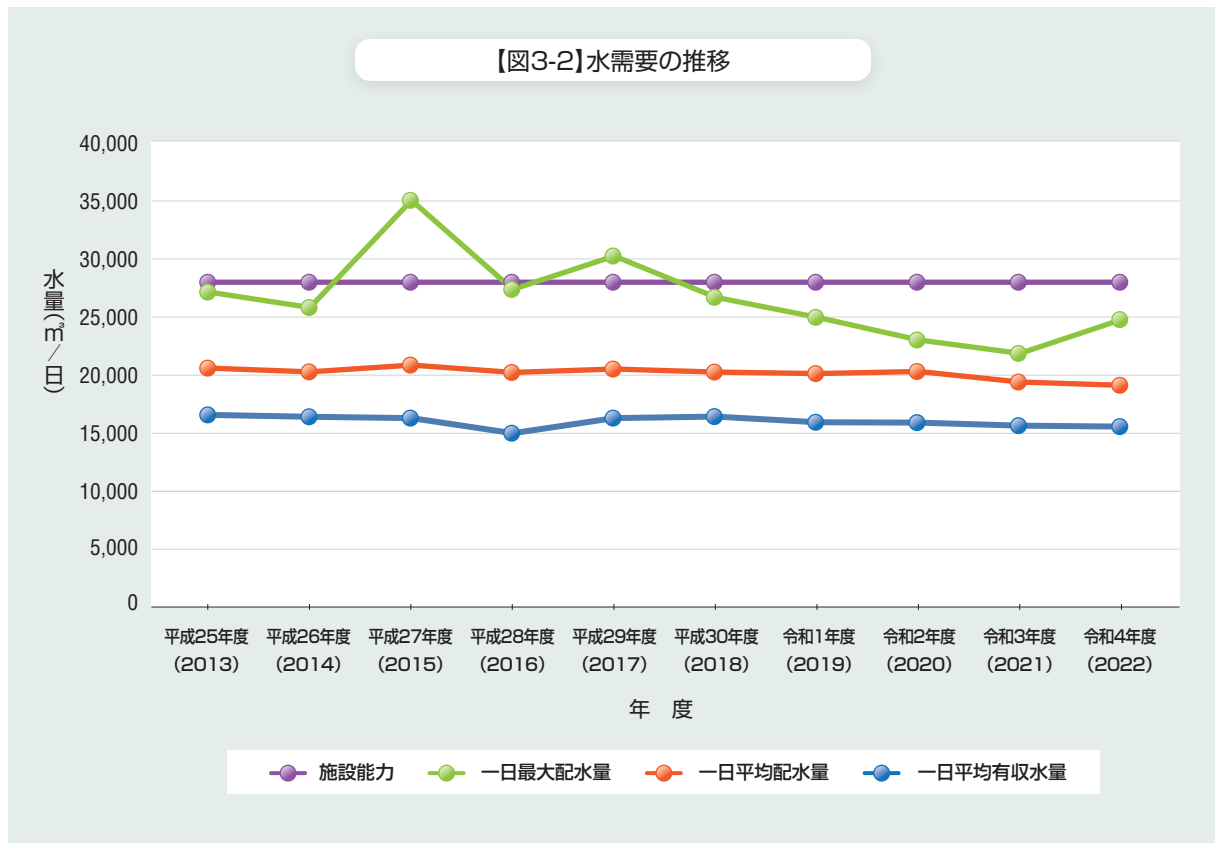
【3-2】京丹後市水道事業の現状評価

2.水需要の推移

水需要の推移を図3-2に示します。施設能力は、平成25(2013)年度と令和4(2022)年度で大きく変わりませんが、一日平均配水量は、近年、減少が見られ、施設能力と一日平均

配水量の差が大きくなっています。

また、一日最大配水量は、寒波や凍結などによる漏水等から施設能力を上回る年もあります。



≫ 水需要の動向に関する課題を以下に整理します。

課題

持続 • 需要量の減少に伴う施設の再構築が必要となります。

(2) 水道施設の状況

1. 運転状況

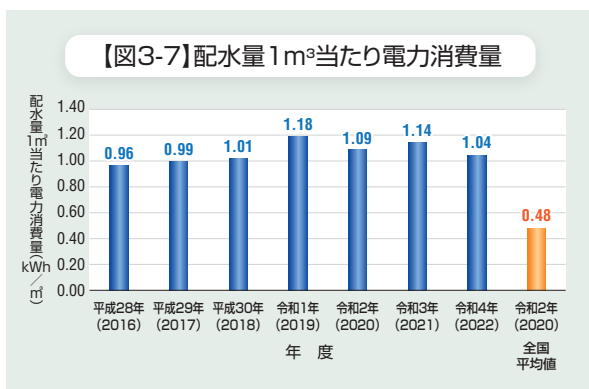
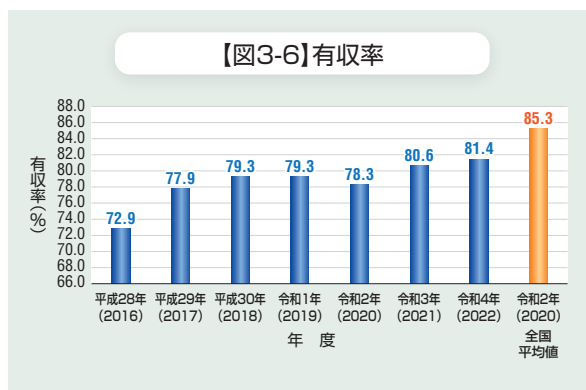
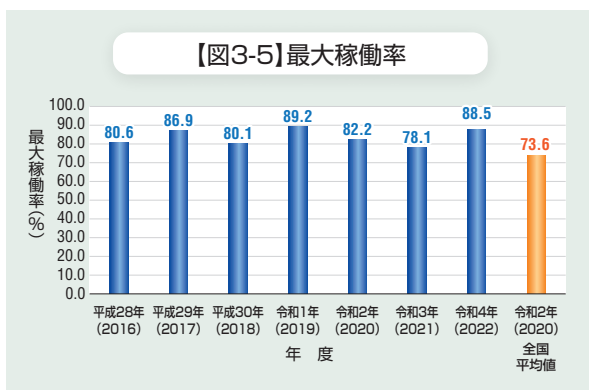
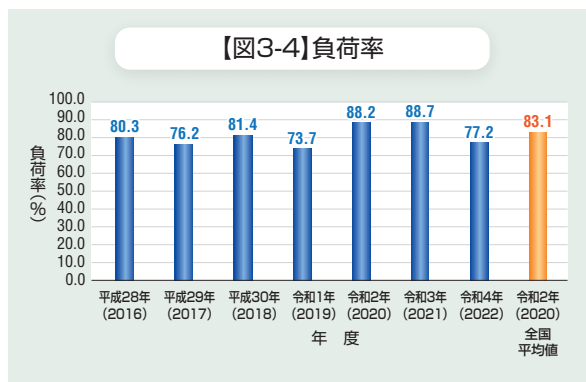
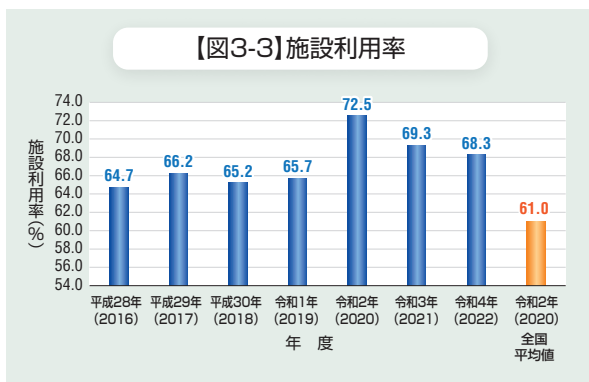
施設の運転状況では、施設利用率、負荷率及び最大稼働率のPIを図3-3から図3-5に示します。

また、施設状況では、有収率及び配水量1m³当たり電力消費量のPIを図3-6、図3-7に示します。

施設利用の効率性を示す施設利用率や最大稼働率は、全国平均値より高い状況ですが、有収率が全国平均より低く、漏水量が要因と考えられます。漏水については、継続した漏水調査により有収率は上昇傾向にあります。今後も引き続き漏水

調査を実施するとともに、原因となる老朽管の更新を進めていく必要があります。

配水量1m³当たり電力消費量が全国平均より多く、これは起伏の激しい地形条件のため、水を送るためのポンプに多くの電力を消費するためです。電力消費は経費の増加につながるだけでなく、化石燃料を必要とする火力発電や温室効果ガスの排出にもつながるなど、環境負荷の低減にかかる取組も必要となります。



※施設利用率、負荷率、最大稼働率、有収率についての説明は、用語集に掲載しています。

【図3-3】から【図3-7】に関して

出典：水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023
令和3(2021)年度水道統計、令和4(2022)年度水道統計

【3-2】京丹後市水道事業の現状評価

2.老朽化状況

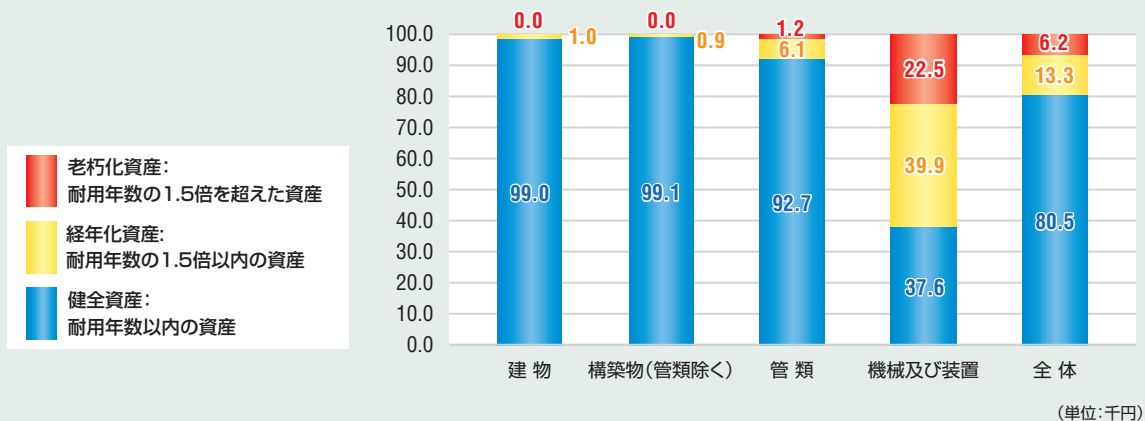
水道施設の健全度を図3-8に示します。令和4(2022)年度で、水道施設全体の総資産のうち、経年化資産(注1)が約13%、老朽化資産(注1)が約6%あり、合わせて総資産の約20%が法定耐用年数を超過している資産です。健全な水道施設を維持するため、計画的な施設の更新が必要です。

市内全域における法定耐用年数超過管路率のPIを図3-9に、水道施設の建設年次と供用年数を表3-1から表3-4に示します。令和4

(2022)年度の法定耐用年数超過管路率は、20%を超えています。今後、管路の老朽化対策を行う必要がありますが、水道事業が有している資産の約半数が管路であるため、その更新費用は事業経営に大きく影響します。健全な経営の維持のため、計画的な管路の更新を進める必要があります。

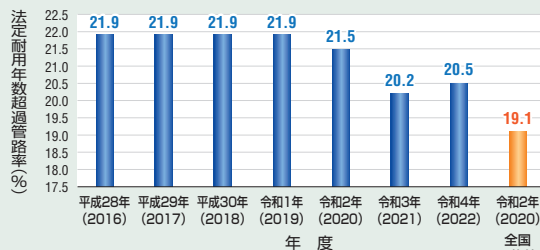
また、水源施設では、老朽化に加え日照り続きなどの気候変動等に応じられる水源の確保も必要となります。

【図3-8】水道施設の健全度(令和4(2022)年度)



	建 物	構築物(管類除く)	管 類	機械及び装置	全 体
老朽化資産	0	0	225,713	2,206,926	2,432,639
経年化資産	13,634	72,382	1,186,901	3,911,471	5,184,388
健全資産	1,398,346	8,393,053	17,888,541	3,679,298	31,359,237

【図3-9】法定耐用年数超過管路率



(注1) 厚生労働省 水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引きによる区分

出典:水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023
令和3(2021)年度水道統計
令和4(2022)年度水道統計

【表3-1】令和5(2023)年度までの供用年数(浄水施設)

併用年数60年超過
併用年数40年超過

区域	浄水場名称	建設(改良) 年次	供用年数 令和5(2023)年度	施設能力 (m ³ /日)	備考
峰山	菅浄水場	昭和45(1970)年	54	1,420	
	中野浄水場	令和 5(2023)年	1	5,437	令和5年度更新完了
	大路浄水場	平成13(2001)年	23	680	
	新町浄水場	平成19(2007)年	17	243	
	茂地浄水場	昭和47(1972)年	52	12	旧茂地飲料水供給施設
	大成浄水場	昭和49(1974)年	50	6	旧大成簡易給水施設
大宮	口大野浄水場	平成16(2004)年	20	2,296	
	善王寺浄水場	平成24(2012)年	12	1,299	
	河辺浄水場	昭和31(1956)年	68	540	
	奥大野浄水場	平成15(2003)年	21	460	旧奥大野簡易水道
	三重浄水場	昭和57(1982)年	42	116.5	旧三重簡易水道
	森本浄水場	平成10(1998)年	26	118	旧森本簡易水道
	竹野川浄水場	平成14(2002)年	22	166	旧竹野川簡易水道
	五十河浄水場	平成16(2004)年	20	55	旧五十河簡易水道
	常吉浄水場	平成 8(1996)年	28	229	旧常吉簡易水道
	久住浄水場	平成 9(1997)年	27	71.4	旧久住簡易水道
	網野	小浜浄水場	平成22(2010)年	14	3,411
新庄浄水場		平成18(2006)年	18	120	
浅茂川浄水場		昭和30(1955)年	69	330	旧浅茂川簡易水道
磯浄水場		平成13(2001)年	23	42.5	旧磯簡易水道
岡田浄水場		昭和46(1971)年	53	96	旧橋簡易水道
松ヶ崎浄水場		昭和48(1973)年	51	91	
依野浄水場		昭和48(1973)年	51	33	
浜詰第1浄水場		昭和43(1968)年	56	499	
浜詰第2浄水場		平成13(2001)年	23	1,187	
郷浄水場		昭和50(1975)年	49	249	旧郷簡易水道
生野内浄水場	昭和61(1986)年	38	42.5	旧生野内簡易水道	
丹後	荒木野浄水場	平成21(2009)年	15	2,254	
	宇川浄水場	平成18(2006)年	18	968	旧宇川簡易水道
	籬石浄水場	平成20(2008)年	16	228	竹野簡易水道
	豊栄浄水場	平成12(2000)年	24	595	旧豊栄簡易水道
八木浄水場	平成15(2003)年	21	101		
弥栄	溝谷浄水場	平成 8(1996)年	28	1,129	旧弥栄中央簡易水道
	和田野第1浄水場	平成13(2001)年	23	1,165	
	和田野第2浄水場	平成 9(1997)年	27	569	
	等楽寺第2浄水場	平成15(2003)年	21	142	
	芋野吉沢浄水場	平成 6(1994)年	30	320	旧芋野吉沢簡易水道
	須川浄水場	平成10(1998)年	26	84	旧野間簡易水道
	小原浄水場	平成 7(1995)年	29	5	旧小原飲料水供給施設
	来見谷浄水場	平成 7(1995)年	29	5	旧来見谷飲料水供給施設
	堀越浄水場	昭和30(1955)年	69	15	旧堀越飲料水供給施設
	吉野浄水場	平成15(2003)年	21	11	旧吉野飲料水供給施設
中山浄水場	平成 4(1992)年	32	4	旧中山簡易給水施設	
久美浜	甲山浄水場	昭和48(1973)年	51	750	旧久美浜西部簡易水道
	引土浄水場	平成30(2018)年	6	210	
	神谷浄水場	平成26(2014)年	10	340	
	三谷浄水場	平成28(2016)年	8	140	
	新谷浄水場	平成16(2004)年	20	600	旧海部簡易水道
	川上谷西部浄水場	昭和49(1974)年	50	630	旧川上谷西部簡易水道
	布袋野浄水場	平成 9(1997)年	27	225	旧川上谷南部簡易水道
	女布浄水場	昭和46(1971)年	53	1,190	旧久美浜東部簡易水道
	佐野甲浄水場	平成23(2011)年	13	100	
	尉ヶ畑浄水場	平成 7(1995)年	29	210	旧久美浜北部簡易水道
	三原浄水場	昭和47(1972)年	52	40	
	神野浄水場	平成 8(1996)年	28	880	
	葛野浄水場	平成12(2000)年	24	930	
旭浄水場	平成 7(1995)年	29	32	旧旭飲料水供給施設	

【3-2】京丹後市水道事業の現状評価

【表3-2】令和5(2023)年度までの供用年数(配水池・ポンプ場) 1/3

併用年数60年超過
併用年数40年超過

区分	水系	施設名称	建設(改良)年次	供用年数 令和5(2023)年度	容量(m ³)	備考	
峰山	菅浄水場系	愛宕山配水池	昭和59(1984)年	40	346.8		
			昭和33(1958)年	66	164.8		
		二箇加圧ポンプ場	平成 2(1990)年	34	0.61m ³ /分×H40m×φ100×7.5kW		
		鱒留加圧ポンプ場	昭和62(1987)年	37	0.25m ³ /分×H80m×φ50×7.5kW		
	中野浄水場系	西谷配水池	昭和44(1969)年	55	1,820		
			平成30(2018)年	6	1,000		
		西山加圧ポンプ場	平成13(2001)年	23	0.08m ³ /分×H77m×φ40×3.7kW		
		小西配水池	平成13(2001)年	23	83.2		
		橋木加圧ポンプ場	平成 7(1995)年	29	0.08m ³ /分×H45m×φ40×3.7kW		
		橋木配水池	平成 7(1995)年	29	92.6		
		仲禅寺加圧ポンプ	-	-	-	27	未建設
		仲禅寺配水池	-	-	-	27	未建設
	大路浄水場系	大路配水池	平成13(2001)年	23	516.6		
	新町浄水場系	新町配水池	昭和31(1956)年	68	54		
昭和31(1956)年			68	81			
平成18(2006)年			18	129.6			
茂地浄水場系	茂地配水池	昭和47(1972)年	52	不明	旧茂地飲料水供給施設		
大成浄水場系	大成配水池	昭和49(1974)年	50	不明	旧大成簡易給水施設		
	配水池数小計		8		未建設を除く		
	ポンプ場小計		4		未建設を除く		
大宮	口大野浄水場系	三坂配水池	昭和63(1988)年	36	1,000		
			平成 8(1996)年	28	1,000		
		三坂加圧ポンプ場	平成 4(1992)年	32	5.5kW		
		マスターレレッジ加圧ポンプ場	平成 5(1993)年	31	φ40		
		周沢加圧ポンプ	平成 8(1996)年	28	0.14m ³ /分×H80m×φ75×5.5kW		
		森本工業団地配水池	平成21(2009)年	15	84		
	善王寺浄水場系	善王寺配水池	昭和57(1982)年	42	115.6		
		大野池配水池	昭和10(1935)年	89	116		
			昭和57(1982)年	42	255		
	河辺浄水場系	河辺配水池	昭和31(1956)年	68	300.8		
	奥大野浄水場系	奥大野配水池	昭和54(1979)年	45	100		
			昭和54(1979)年	45	40	旧奥大野簡易水道	
			昭和54(1979)年	45	240		
	三重浄水場系	三重配水池	昭和58(1983)年	41	109.4	旧三重簡易水道	
	森本浄水場系	森本配水池	昭和28(1953)年	71	42.8	旧森本簡易水道	
			昭和10(1935)年	89	95.6		
	竹野川浄水場系	竹野川配水池	昭和45(1970)年	54	82	旧竹野川簡易水道	
		昭和55(1980)年	44	27.3			
五十河浄水場系	五十河配水池	平成16(2004)年	20	92.2	旧五十河簡易水道		
常吉浄水場系	常吉配水池	平成 9(1997)年	27	202.8	旧常吉簡易水道		
久住浄水場系	久住配水池	平成10(1998)年	26	96.2	旧久住簡易水道		
	配水池数小計		12				
	ポンプ場小計		3				
網野	小浜配水池	小浜浄水場系	昭和59(1984)年	40	1,361.2		
		島津配水池	昭和36(1961)年	63	933		
	新庄浄水場系	新庄配水池	昭和42(1967)年	57	70.4		
			平成18(2006)年	18	60		
	浅茂川浄水場系	浅茂川配水池	平成20(2008)年	16	不明	旧浅茂川簡易水道	
	磯浄水場系	第1配水池	昭和36(1961)年	63	27.2	旧磯簡易水道	
			昭和60(1985)年	39	36		
			平成11(1999)年	25	20		
	岡田浄水場系	岡田配水池	昭和46(1971)年	53	94		
	松ヶ崎浄水場系	松ヶ崎配水池	昭和48(1973)年	51	63		
			昭和48(1973)年	51	70		
	俵野浄水場系	俵野配水池	昭和48(1973)年	51	54.8		
	浜詰第1浄水場系	塩江配水池	塩江高区配水池	昭和58(1983)年	41	60	旧橋簡易水道
			昭和31(1956)年	68	32.6		
昭和31(1956)年			68	50.1			
昭和43(1968)年			56	150			
昭和46(1971)年			53	96			
浜詰第2浄水場系	浜詰第2配水池	平成 4(1992)年	32	498			
		平成12(2000)年	24	537.5			

【表3-2】令和5(2023)年度までの供用年数(配水池・ポンプ場)2/3

併用年数60年超過
併用年数40年超過

区分	水系	施設名称	建設(改良)年次	供用年数 令和5(2023)年度	容量(m ³)	備考
網野	郷浄水場系	1号配水池	昭和50(1975)年	49	114	旧郷簡易水道
		2号配水池	平成 7(1995)年	29	103	
		郷ポンプ場	昭和47(1972)年	52		
	生野内浄水場系	生野内配水池	昭和61(1986)年	38	63	旧生野内簡易水道
	配水池数小計			17		
ポンプ場小計			1			
丹後	荒木野浄水場系	高区配水池	昭和36(1961)年	63	350.2	
			昭和43(1968)年	56	298.2	
			平成14(2002)年	22	94.3	
		砂方加圧ポンプ場	昭和54(1979)年	45	0.37m ³ /分×H64m×Φ50×7.5kW	
		砂方配水池	平成19(2007)年	17	168	
		遊加圧ポンプ場	昭和39(1964)年	60		
		遊配水池	昭和41(1966)年	58	75.6	
		昭和41(1966)年	58	100.8		
		掛津配水池	平成24(2012)年	12	144	
	宇川浄水場系	宇川配水池	平成19(2007)年	17	364.7	旧宇川簡易水道
		谷内加圧ポンプ場	平成20(2008)年	16	0.06m ³ /分×H23m×Φ50×1.5kW	
		谷内配水池	平成20(2008)年	16	47.8	
		此代加圧ポンプ場	平成19(2007)年	17	0.06m ³ /分×H84m×Φ50×1.5kW	
		此代配水池	平成20(2008)年	16	80	
		中浜加圧ポンプ室	平成21(2009)年	15	0.06m ³ /分×H84m×Φ50×1.5kW	
		中浜配水池	昭和57(1982)年	42		
	筆石浄水場系	筆石配水池	平成18(2006)年	18	203.6	旧竹野簡易水道
		乗原配水池	平成19(2007)年	17	64	
	豊栄浄水場系	豊栄配水池	平成13(2001)年	23	416.4	旧豊栄簡易水道
		矢畑加圧ポンプ室	平成13(2001)年	23	0.02m ³ /分×H94m×Φ50×1.5kW	
矢畑配水池		昭和49(1974)年	50	47.9		
八木浄水場系	八木配水池	平成15(2003)年	21	123.2		
配水池数小計			13			
ポンプ場小計			6			
弥栄	溝谷浄水場系	溝谷配水池	平成 9(1997)年	27	692.3	旧弥栄中央易水道
	和田野第1浄水場系	和田野第1配水池	平成12(2000)年	24	710	
	和田野第2浄水場系	和田野第2配水池	平成 8(1996)年	28	424.5	
	等楽寺第2浄水場系	等楽寺第2配水池	平成12(2000)年	24	156	
	芋野吉沢浄水場系	芋野吉沢配水池	平成 5(1993)年	31	75	旧芋野吉沢簡易水道
			平成 5(1993)年	31	196	
	須川浄水場系	須川配水池	平成10(1998)年	26	55.4	旧野間簡易水道
			平成10(1998)年	26	62	
	小原浄水場系	小原配水池	平成 7(1995)年	29	36	旧小原飲料水供給施設
	来見谷浄水場系	来見谷配水池	平成 7(1995)年	29	36	旧来見谷飲料水供給施設
	堀越浄水場系	堀越配水池	昭和30(1955)年	69	14.5	旧堀越飲料水供給施設
	吉野浄水場系	吉野配水池	平成15(2003)年	21	41	旧吉野飲料水供給施設
	中山浄水場系	中山配水池	平成 4(1992)年	32	不明	旧中山簡易給水施設
	配水池数小計			12		
ポンプ場小計			0			
久美浜	甲山浄水場系	久美浜配水池(主)	昭和47(1972)年	52	636.4	旧久美浜西部簡易水道
		河内加圧ポンプ場	平成28(2016)年	8		
		河内配水池	平成28(2016)年	8	32	
	引上浄水場系	引上加圧ポンプ場	昭和33(1958)年	66	0.56m ³ /分×H18m×Φ80×5.5kW	
		久美浜配水池(副)	昭和33(1958)年	66	34.85	
	神谷浄水場系	神谷配水池	平成24(2012)年	12	15	
		河梨配水池	昭和50(1975)年	49	46	
		奥馬地配水池	昭和 5(1930)年	94	35.7	
	三谷浄水場系	三谷配水池	平成28(2016)年	8	60.2	
		甲坂配水池	昭和34(1959)年	65	40	
	新谷浄水場系	島配水池	昭和40(1965)年	59	126.5	
谷配水池		平成15(2003)年	21	353.5		
谷加圧ポンプ場		平成15(2003)年	21	0.33m ³ /分×H60m×Φ50×3.7kW		
川上谷西部浄水場系	畑配水池	昭和49(1974)年	50	167.6	旧川上谷西部簡易水道	
		平成 5(1993)年	31	122		

【3-2】京丹後市水道事業の現状評価

【表3-2】令和5(2023)年度までの供用年数(配水池・ポンプ場)3/3

併用年数60年超過
併用年数40年超過

区分	水系	施設名称	建設(改良)年次	供用年数 令和5(2023)年度	容量(m ³)	備考
久美浜	布袋野浄水場系	布袋野配水池	昭和32(1957)年	67	60	旧川上谷南部簡易水道
			平成 9(1997)年	27	157.8	
	女布浄水場系	女布第1配水池	昭和47(1972)年	52	326.4	旧久美浜東部簡易水道 ※郷加庄ポンプ場は佐野乙配水池への送水ポンプ場
		女布第2配水池	昭和57(1982)年	42	365.2	
		女布第3配水池	平成13(2001)年	23		
		郷加庄ポンプ場※	昭和58(1983)年	41	0.12m ³ /分×H58m×φ65×3.7kW	
		安養寺第1配水池	昭和34(1959)年	65	335.2	
		長野・円頓寺加庄ポンプ場	平成15(2003)年	21	0.56m ³ /分×H75m×φ80×15kW	
		長野配水池	昭和47(1972)年	52	75	
		郷配水池	平成27(2015)年	9	182	
	佐野甲浄水場系	佐野甲配水池	平成24(2012)年	12	126	
	尉ヶ畑浄水場系	尉ヶ畑高区配水池	平成 6(1994)年	30	102	
		尉ヶ畑低区配水池	平成 6(1994)年	30	152	
	三原浄水場系	岡配水池	昭和47(1972)年	52	48	旧三原簡易水道
	神野浄水場系	神野配水池	昭和43(1968)年	56	119	旧久美浜北部簡易水道
			昭和62(1987)年	37	450	
	葛野浄水場系	大向配水池	昭和59(1984)年	40	604.76	
	旭浄水場系	旭配水池	平成 6(1994)年	30	63	旧旭飲料水供給施設
	配水池数小計		26			
	ポンプ場小計		5			

3.耐震化状況

耐震化の状況として、浄水施設の耐震化率、基幹管路の耐震化率、配水池の耐震化率及びポンプ所の耐震化率の状況を表3-3に示します。

水道施設の耐震化率は、全国平均と比べ低い水準となっています。郷村断層帯や山田断層帯による地震で震度7が予想される地域もあり、水道施設の耐震化やバックアップ

施設の整備など、強靱化に向けた取組が必要です。市単独では解決できない問題には、広域的な取組も必要です。

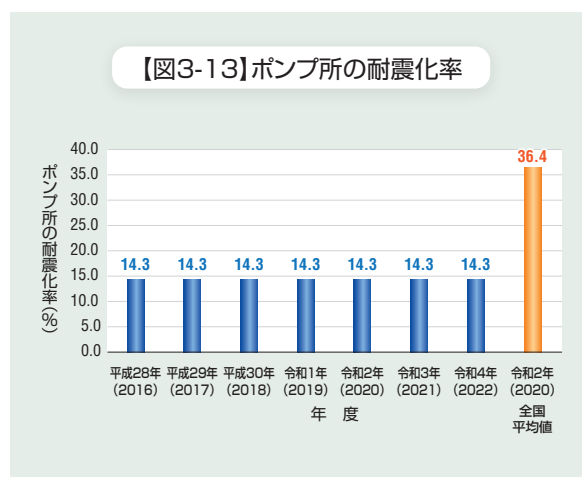
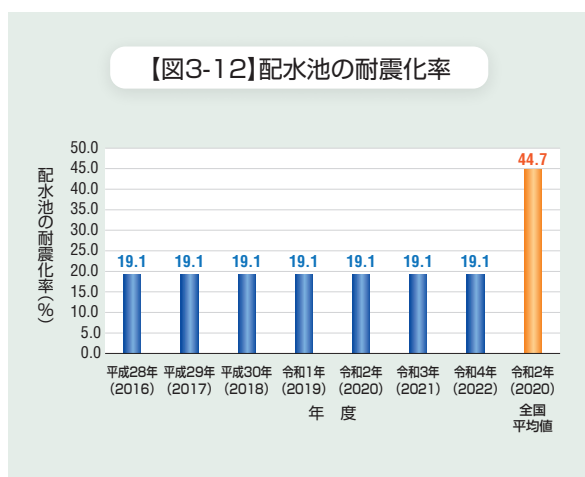
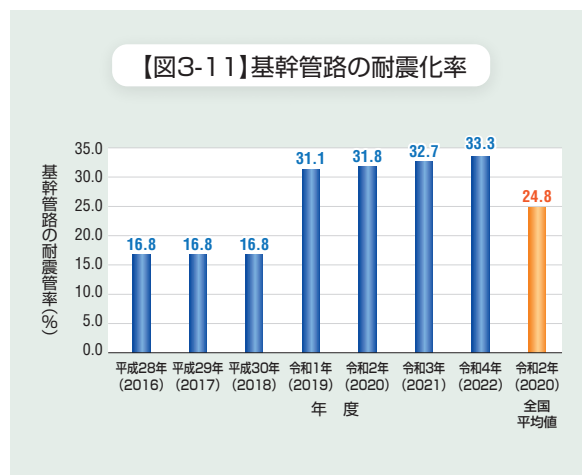
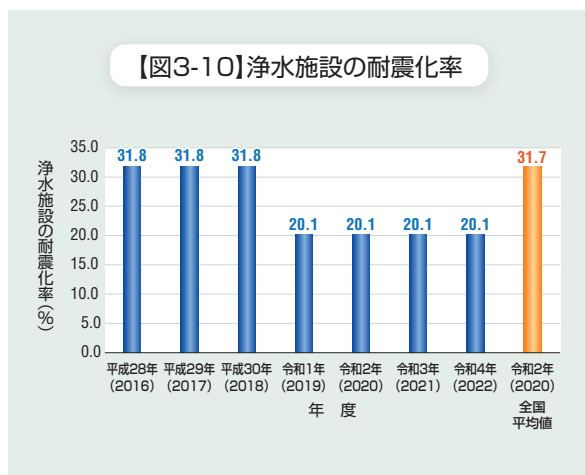
このような整備には費用と時間がかかるとともに、いつ発生するか分からない地震などの自然災害に対して、円滑な対応につながるマニュアル整備などのソフト対策も必要です。

【表3-3】耐震化率の状況

項目	京丹後市(令和4(2022)年度)	全国平均(令和2(2020)年度)
浄水施設の耐震化率(%)	20.1	31.7
基幹管路の耐震化率(%)	33.3	24.8
配水池の耐震化率(%)	19.1	44.7
ポンプ所の耐震化率(%)	14.3	36.4

出典:令和4(2022)年度京丹後市水道統計
令和2(2020)年度全国平均は水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023

耐震化の課題に関連するPIを図3-10から図3-13に示します。



【図3-10】から【図3-13】に関して

出典：水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023
令和3(2021)年度水道統計、令和4(2022)年度水道統計

》 施設状況に関する課題を以下に整理します。

課題

持続

- 電力消費量が多いことから、環境負荷低減の取組が必要です。
- 施設の老朽化が進んでいるため、計画的更新を行う必要があります。
- 水源水量の低下に備えた水源の確保が必要となります。

強靱

- 水道施設の強靱化のため、耐震化を進めていく必要があります。
- 水道施設の強靱化に向けたバックアップ施設を整備する必要があります。
- 広域的な連携を実施する必要があります。
- ソフト対策によるリスク低減を図る必要があります。

(3)水質状況

安全・安心な水道水の供給に当たり、定期的な水質検査を行っています。

原水の水質検査は、83か所の各浄水場の水源地及び浄水場より採水し、浄水は、配水系統ごとに採水地点を設け、54か所の給水栓で検査を行っています。

水質基準に適合した安全な水の供給を将来にわたり続けるために、水質管理に関する知識や技術力について、近隣自治体との共有により、一層高める取組として実施します。

水質検査については、市ホームページにて水質検査計画及び水質検査結果を公表しており、安全・安心な水道水の供給に努めています。このような情報も、より安心して水道を利用することができるものとして、情報提供を重ねていきます。

また、水源から蛇口に至るまでの各段階においては、多様なリスク(水質悪化・自然災害・人為的テロ等)が潜在しています。これらリスクへの対策も必要です。

≫ 水質状況に関する課題を以下に整理します。

課題

安全

- 水質管理に関する知識や技術力を充実する必要があります。
- 充実した情報提供を実施する必要があります。
- 水道水を供給するなかで、想定される多様なリスク(水質悪化・自然災害・人為的テロ等)への対策が必要です。

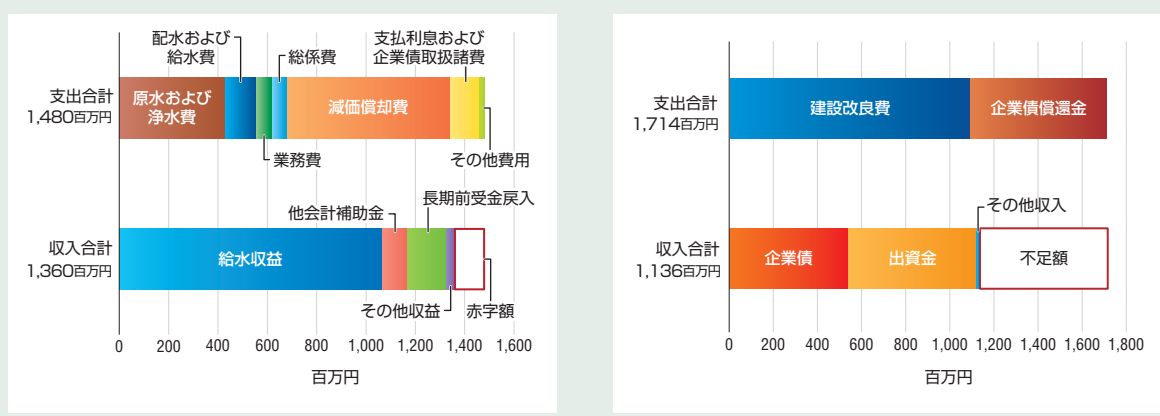
(4) 経営状況

1. 財政状況

令和4(2022)年度の収益的収支及び資本的収支について図3-14に示します。収益的収支については、収入を支出が上回る状態です。資本的

収支については、支出に対して収入に不足額が生じていますが、内部留保資金で補っています。近年はこのような状況が続いています。

【図3-14】令和4(2022)年度の収益的収支(左)と資本的収支(右)



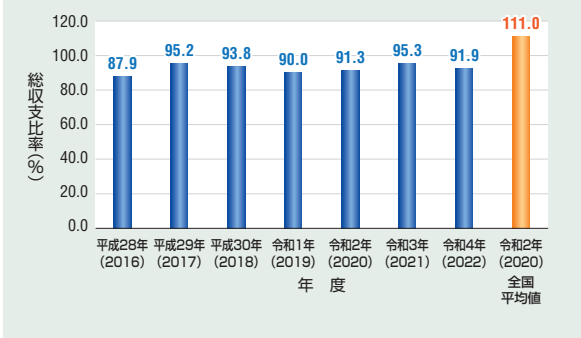
水道事業の収益の課題に関連するPIを図3-15及び図3-16に示します。

総収支比率は、総費用が総収益によってどの程度賄われているかを表す指標で、経営の健全性を示しています。令和2(2020)年度の全国平均は111.0%、本市の令和2(2020)年度は91.3%で全国平均を下回っています。財政状況の改善

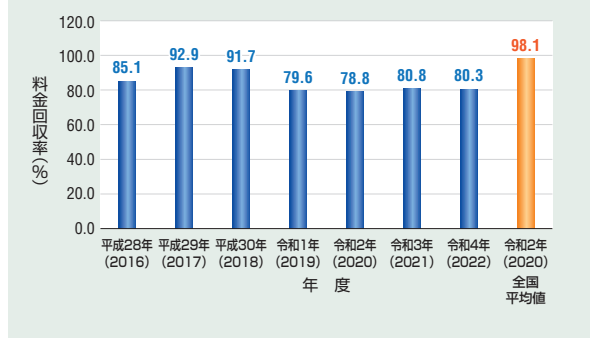
は、本指標値の上昇につながります。

料金回収率は、供給単価と給水原価の関係を表す指標です。令和2(2020)年度の全国平均は98.1%、本市の令和2(2020)年度は78.8%で全国平均を下回っています。100%を下回ると、給水に係る費用が水道料金による収入で賄いきれていないことになります。

【図3-15】総収支比率



【図3-16】料金回収率



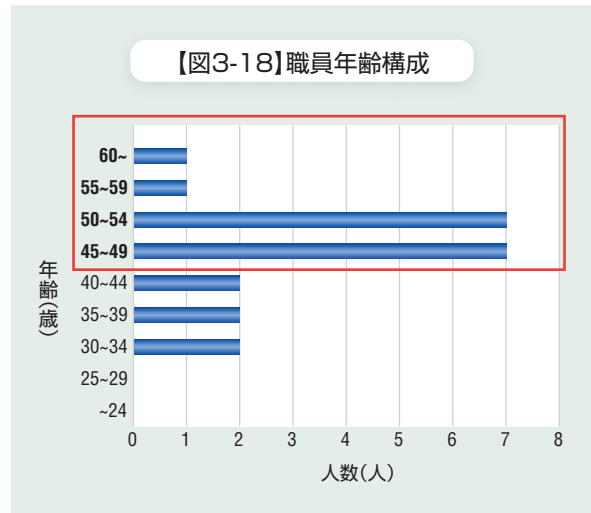
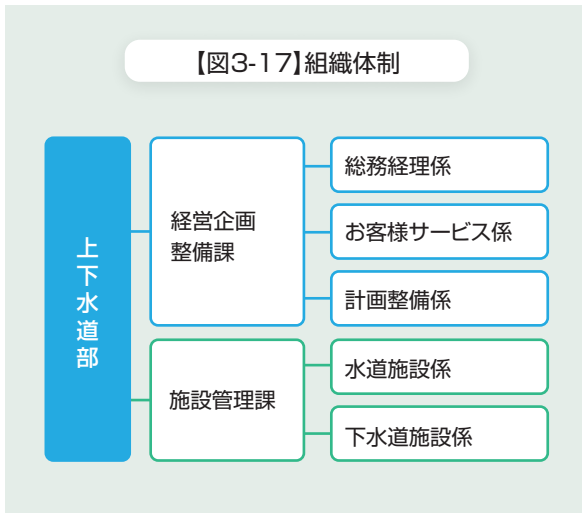
【図3-15】から【図3-16】に関して

出典: 水道統計を基に算出した現状分析診断システム2023
令和3(2021)年度水道統計、令和4(2022)年度水道統計

2.組織体制

本市の上下水道部は、図 3-17に示す組織体制で運営しています。令和4(2022)年度現在の職員数は22人で、図3-18で示すように、年齢層の偏りがあります。職員数の減少に

備えて人材の確保を行うだけでなく、知識や技術力の低下を防ぐとともに、ICT技術の活用など、より効率的に業務を行える仕組みが構築できる体制が必要です。



出典：令和4(2022)年度水道統計

3.人材育成

将来にわたって、ライフラインとして水道を維持するためには、その時々状況に応じた、的確な対応ができ、水道施設の運営に係る専門的な知識や経験を有する職員の確保

や育成が必要です。

ベテラン職員による知識や技術力の継承を図り、技術力向上のため、今後も計画的な人材育成が必要です。

≫ 経営状況に関する課題を以下に整理します。

課題

持続

- 水道事業の財政の健全化に向けて、財政基盤の強化が必要です。
- 人材を確保し、知識や技術力の継承が必要です。
- 効率的な業務を行える仕組みを構築する必要があります。
- 技術力向上のため、計画的な人材育成が必要です。

【3-3】現状評価の課題

現状評価による課題を表3-4のように整理します。

【表3-4】現状評価の課題のまとめ

項目		課題	6章施策番号 参照ページ
【3-2】 (1)水需要の動向	持続	● 需要量の減少に伴う施設の再構築が必要となります。	※① P60
【3-2】 (2)水道施設の状況	持続	● 電力消費量が多いことから、環境負荷低減の取組が必要です。	※② P61
		● 施設の老朽化が進んでいるため、計画的更新を行う必要があります。	※① P60
		● 水源水量の低下に備えた水源の確保が必要となります。	※③ P62
	強靱	● 水道施設の強靱化のため、耐震化を進めていく必要があります。	※⑩ P69
		● 水道施設の強靱化に向けたバックアップ施設を整備する必要があります。	※⑪ P70
		● 広域的な連携を実施する必要があります。	※⑬ P72
		● ソフト対策によるリスク低減を図る必要があります。	※⑫ P71
【3-2】 (3)水質状況	安全	● 水質管理に関する知識や技術力を充実する必要があります。	※⑦ P66
		● 充実した情報提供を実施する必要があります。	※⑨ P68
		● 水道水を供給するなかで、想定される多様なリスク (水質悪化・自然災害・人為的テロ等)への対策が必要です。	※⑧ P67
【3-2】 (4)経営状況	持続	● 水道事業の財政の健全化に向けて、財政基盤の強化が必要です。	※① P60
		● 人材を確保し、知識や技術力の継承が必要です。	※④ P63
		● 効率的な業務を行える仕組みを構築する必要があります。	※⑥ P65
		● 技術力向上のため、計画的な人材育成が必要です。	※⑤ P64

※番号は第6章推進する実現方策の具体的方策番号を示すものです。



コラム

冬季は水道管が凍結し、水が出なくなったり破損したりすることがあります。水道管が露出している場合は特に注意が必要です。ご家庭の利用状況を確認のうえ、保温材で覆うなど凍結防止対策を行ってください。

また、水道管破損による漏水を早期に発見するため、月に一度は水道メーターをご確認いただき、漏水がないか点検をしてください。漏水を発見した場合は、速やかに市指定工事事業者へ修理を依頼してください。



水道管が露出している場合は、保温材で覆うなどの凍結防止対策を行ってください。



水道管の破損による漏水も多くなるため、月に一度は水道メーターの確認を心掛けましょう。